

だから。

▲小説家に向つて、青年男女の思想を寫した小説をかくことを禁ずることは無理である。俳優に向つて、同じ様な劇を演ずる勿れといふことも無理である。然し親切に女子教育の任に當る家庭が、各自この問題に注意して右の様な方法の實行を考究するとか或は暫く子女を是より遠くると云ふことは當然の義務ではあるまいか。社會は複雑なものですから或一部のものに惡るいからとして悉く夫れを社界からのけることは出来ない。教育上不都合なものは之を暫く被教育者から遠けるのが父兄の任務で其手数が面倒だからとして併せて社會からも除け様と云ふのは少し勝手過ぎる話だと思ふ。



## 婦人問題と男女交際

(日本家庭辭書のうちより)

西山 慈 治

題して婦人問題と男女交際といふ、二者共に家庭に關する根本問題にして、婦人問題より派生して女子天職の問題及び女子教育に關する研究の聲や起る可く、男女交際は結婚制度に影響して結婚問題殊に自由結婚に多大の關係を有し、此の結婚制度は直ちに家庭組織に煩を及ぼして世の所謂自由結婚を標榜するものをして別居制度を主張せしむ。頃者家庭問題の研究の盛なる、或は曰、婦人の獨立、女子の生活問題、地位を高めよと呼び、或は男女交際を稱へて自由を叫び、家族制度を打破して別居制度に従ふ可しを主張す、此等の多くは西歐に心酔せる人の口吻によつて傳へらる。然

れども思へ、制度に適不適あるは尙ほ國によつて  
 其の政体を一にせざるが如く、農産物は適地にの  
 み産して北海道の地は到底蜜柑の産に堪へざると  
 一般、西洋諸國に取つて利あるもの却つて我に需  
 めて害ふの太だしきものわらざるなきか、制度は  
 一なり、種子は同じ、而も取る人、用ふる國、養  
 ふ土地の如何によつて其の結果を異にするもの其  
 れ果して制度の罪か、此に於て吾人は習慣制度を  
 愛護すると同時に進取改革を否定し敢て世の進化  
 に反抗を試むるの愚を學ばざるなり、過渡の時代  
 に處す吾人の態度亦難きかな。

日本家庭辭書編纂の理由、輕佻を以て知られ、  
 浮華を以て此に名わりし我が出版界は家庭研究で  
 ふ一新流行の問題を追ひ、此れに關して世に公  
 にせらるゝその甚だ多きに係らず、未だ議論の正

確、説くに懇ろなるものなく、多くは一時的駄作  
 の誹を危れざるもの殆ど無といふも人敢て首肯を  
 拒まざるに似たり、吾人は常に家庭に忠實に似て  
 却て不忠實なる我が出版界に對して多少の怨ずる  
 ところなき能はざりし也。此れ余輩が僭越を敢て  
 して本書を編するに至りし動機にして、幸に書  
 肆弘道館は目下印刷に多忙にして近く世に出ん、  
 今此に是非を言ふは自畫自贊の甚だしき陋擧たる  
 を思ひ、本書發刊の日を期して幸に一讀を榮を賜  
 はり、且叱正の勞を惜ませ給はざらば余の光榮何  
 を以てか之れに加へん。今同書に載するところの  
 婦人問題——女子の天職、男女交際——自由結婚  
 の四項を抜いて題意に副はんとす。

(次の四項は日本家庭辭書原稿の儘を引用せるが故に各項の間に  
 組織連絡を欠き、論旨一貫せず、斷片に失せる嫌なしとせず、

讀者幸に辭書として本幅を讀まれんことを、切に……)

婦人問題 婦人問題の盛に唱導せらるゝは、獨り

女子の爲めのみならず、又、男子の爲めにも慶賀すべきことなり。職業なくんば終生人に服従し依頼し、品位價值なし故に女子に職業を授け、獨立を與へよとは論者が主張の要點とする所なり、然れども外、社會に出で、收入を得んとすることをのみ職業と謂ふべきか、即ち女子が家庭に於ける業務をばたい収入なきの故を以て職業にわらず、價值なしとするを得べきか、尙ほ研究を要す。歴史に見よ、何れの世にか女子に職業を與へざりし國やある、齊家、教養のみを女子の業とするも尙ほ此れ女子の大なる天職にして貴き職業にわらざるなきか。又、女子に獨力の意味なしと謂ふ、然れども獨立とは自活を意味せず、妻は夫の力によ

りて其の生を營むと雖も、又、妻の力なくんば夫たるもの何んぞよく其の家を成し、其の業に力むるを得んや、夫婦は偕に各自の職分を有す、各自の職分を自己の手一つにて果すもの此れ獨立せる人にわらずや。然らば夫にして獨立の人ならんか妻も亦獨立の人なり、何を苦んてか家を棄て、夫を顧みず、又、愛兒を抛つて社會に職業を求め多少の收入を得て獨立の人と誇稱するの要あらんや。夫れ武人は劍を手にし、伶人は笛を取る、伶人は自己の地位を高むべく笛を棄て、劍を執らんとす此れ正しき道か、其の笛を手にせるまゝにして尙ほ自己の地位を高め劍を手にする能はざるか、若し伶人にして武人たる品性を缺かんには劍を手にして武人に伍すと雖も、詮なし、其の劍たる伶人の爲めに鈍ならずんば幸なり。若し女子にして

誠によく自己の天職を自覺し其の職分に力めんか  
 此れ正に獨立の人にして社會進歩の功は半を女子  
 に許し、自ら求めずして其の地位を高むるを得べ  
 し。世の天職其れ自らが貴き神聖なる職業にして  
 天職の爲めに力むる、此れ獨立の人なり。獨立の  
 人に對して社會は何ぞ輕侮し其の地位を呪はんと  
 するの酷に失せんや。人生の要義は自己の天職を  
 自覺するにあり、女子は自己の天職を自覺して始  
 めて其處に獨立と貴き地位を得るなり、又、何ん  
 ぞ獨立を興へよ、職業を絶叫するの要を見や。  
 女子の天職 健全なる國家は健全なる家庭に舍り  
 此に有爲の人物を輩出し慰安、反省、勇氣を興へ  
 以て社會に大事を爲さしむ、此れ女子が能く内を  
 守り、男子をして社會の表面に立ち安じて健闘せ  
 しめし偉功にあらすや、人、誰か偉大なる女子の

功績を認めざるものあらんや。人生の活動には内  
 外の別あり、内に於て家政を整理し、衣食を調し  
 老体に奉養し、子女の教養を掌り、能く夫を慰藉  
 するは周密、親切、忍耐に長ぜる婦人に俟たずし  
 て何んぞ能く男子の爲し得べき所ならんや。實に  
 婦人は内に活動すべき天職を有し、家庭は婦人の  
 爲めに設けられたりと謂ふも不可なし。能く一家  
 の和合に力め夫をして悠悠外に活動せしめ子女を  
 教養して良民を提供するは個人及び國家を益する  
 實に大なるものにして此の重要に且困難なる衝に  
 當る女子の功勞は決して男子の外的動勞に譲らざ  
 るなり、男子が獨立ならば女子も亦獨立なり、女  
 子たるもの何を苦んでか自己の天職を捨て、男子  
 と外に競はんとはする。實にや、内を守るは婦人  
 の天職にして、男子を外に女子をして内に動か

しむるは其の精神上及び生理上に於て天の配劑たるを示せるものなり。然れども内を守りて尙ほ餘力あらば、女子の天性に近き慈善事業に従ひ或は國家の大難に際するや、夫の爲め國の爲め尙ほ男子的職務に動しめ然も且辭せざるの覺悟なかるべからず、されど此は變の非常なる場合にして女子處世の常經にわらざるを知らざるべからず。

男女交際 交際とは言語舉動或は文章を以て相互の思想を交換するを謂ふ。男女の思想を交換するもの、此れを男女交際と謂ふ。我國に於ては支那思想の影響を受け男女の交際は行はれず、其の東洋思想の常として、男女七歳にして席を同らせず、との教訓に勢力ありて、専ら男女別離主義行はれしなり。然るに西洋にては盛に男女の交際會あり。此の風習今や我國に傳播して憾に男女交際の唱導

せらるゝを見るに至れり、夫れ男女は其の性質に於て大に其の趣を異にす、即ち身体に於て然り、亦其の精神に於ても男子の獨立、進取寛大なるに反して女子は優美、温順、保守なるを通性とす。此に異なる性格の男女をして交際せしめ相互の性情をして融合調和せしむべく、又男子は女子を、理解する機會を與へんと目的よりして此の問題漸く熾ならんとす、然れども青春の男女をして漫然其の交際を實行せしむるは尙ほ大に注意を要す。利あると共に弊害の來る亦甚だ少なからざれば父母教師は十分嚴重なる看督の下に行はしむるを要す。

自由結婚 愛なき結婚は罪惡なるが故に彼我の人格を知つて相結ぶにあらざれば到底偕老同穴に永續なること能はず、即ち結婚は自由なるべし

とは自由結婚主義者の主張する所なり。然れども彼等も其の始めに於ては相識らず、互に想像する

ことによりてのみ解したるに過ぎず、殊に若き男女の交際は互に衒ひ飾りて虚偽に流れ容易に相互の眞状を洞察する能はずして相互の人格を知るは結婚後のことに屬し、始めの想像と一致せず爲めに多少の失望と豫想外の感なくんば幸なり。夫婦は相敬愛し以て其の人格を完うすべきも愛情は強烈にして青春の男女は未だ十分なる知識経験なく、只烈火の如く熾なる情のみにて何等前後の思慮、將來の分別を省みず、一時の愛情に溺れ將來の幸福を犠牲に供し爲めに熱情次第に其の度を失ひ、今日の樂園は化して明日の悲境たらんとす。夫婦間に於ける高潔純粹なる愛情あらば情誼日と共に加はり益々永久堅固となり。必ずや、彼の『諸

共に解くるにつれてくやしきはつれなく過ぎし昔なりけり』の念なかるべからず。彼の自由結婚の如きは互の人格を誤解して不釣合こそ不縁の原因となり、遂には悲惨なる一幕の痴事に終らん、されば眞の自由は長上、父母の助言に聽き以て盲目的なる一時の感情を抑へ公平に最も冷靜なる態度を以て理性の判断に任ぜざるべからず、今日の自由結婚論者の唱ふるが如き愛は決して純潔にあらざして結婚の目的を全うすべからざるのみならず、又社會の秩序を害するの甚だしきものとして吾人の斷じて服する能はざる所以なり、尙ほ結婚の目的の項に説くところあるべし。

(完)

▲面白き婚禮、スペイン國には面白き婚禮の習慣がある。富者は早朝に式を行ない身分低くなるに従つて段々遅くなつて貧者は夜分になつて禮式を擧ぐる由